

調査・研修報告書（議員用）

報告者： 前田 智永

実施場所：一橋大学学術総合センター	実施日：令和4年5月19日～20日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>本市において最重要課題である人口減少対策について、様々な立場、環境にある方々から事例や想いを聞かせていただき、共感出来るところは取り入れ、出来ないところは本市の場合はどうすべきかを考えたい。</p> <p>そして、それらを市民の方々と共有し、議論し、地域づくりに生かしたい。人口が増加している地域の事例を伺い、地域づくりや市政に取り入れたい。</p> <p>調査研究に行かせていただくことで、リアルな声や空気を身体で感じ、学び、市民の皆さんにお伝えしたい。人口減少は諦めることなく、努力して対策出来ること、人口増加への対策は可能だと言えるような研修にしたい。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>社会情勢を踏まえた広井氏のお話では、ご自身が精力的に活動されてきたふるさと回帰フェア等から都市集中ではなく、地方分散を訴え続けて来られた。これまでの日本社会を登山に例えると、今山頂に登ってきた、360度の視界からあとはそれぞれに好きな方向へ降りていくイメージとのこと。若者が地域への関心を高めてきている。地域密着度が重要な鍵。</p> <p>人口流入が増加している海士町の阿部氏は、「持続可能な地域」をつくるのではなく、「地域づくり」を持続可能にするというお話が印象的だった。ないものはない。ないことを楽しむ、ない暮らしを望む「人」の生き様や暮らしが魅力とも言われていた。</p> <p>福島県鯖江市にJK課をつくり、尽力された若新氏のお話は本当に面白かった。まちづくりはそもそも「ゆるい」もので、なんとなく楽しい、というスタンスの必要性を話された。正解を導き出す人と距離を置き、プロっぽい大人の助言を聞かない、目標を定めず女子高生の斬新なアイデアを実現させてきた。自衛隊との交流で、謎の夜のファッションショーや市長をも女装させるような仮装イベント、市役所で肝試ししたり、公園を貸し切って水鉄砲サバイバルゲーム等「青春」を楽しむことで、国連等で受賞したり事例発表をした。若者に託し、大人では考えられないことに市や議会がなんとか理解を示し、予算を付けたことで、JK課の卒業生の8割が故郷に帰ってくる結果を生んだ。</p> <p>富山県南砺市の田中市長はちまちなま出しちゃだめ。ドンと出して任せることが大事だと話されていた。</p> <p>長崎県五島市では浮上型洋上風力発電に着手。日本初のウィンドファーム事業。ゼロカーボンシティ宣言や地域協働課を新設する事で住民や企業のサポート、H28以降6年で移住者1000人を超えた。その70%以上が30代以下の若者。</p>	

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

地域づくりは人であるということに尽きると感じた。市民ひとりひとりが楽しみ、地域を愛し、自信をもって庄原が好きだと言えるところを目指す。市民や企業の挑戦をサポートし、あれがダメこれがダメというダメダメ論を突破し、市民と共に楽しんで挑戦できる行政、議会運営が出来るようなまちづくりをすべき。

本市においては基幹産業として農業、酪農がある。農業者が楽しんで暮らせるように、現地実態調査や意見収集を徹底的に行い、広域合併を控えるJA庄原との連携を強化すべき。耕作放棄地対策については農政局や農業委員会も交えて地域ごとにゆるく永く楽しめる対策を模索することを提案したい。

学校適正規模・適正配置基本計画についての、学校・児童生徒・保護者・地域との意見交換や教育魅力化への環境整備強化、学校運営協議会の活発な活動をサポートすべき。旧町ごとにも自治体ごとにも地域性があり、地域に合った活動をしなければならない。まずは本音で話し合えるような関係性を築くことに尽力いただきたい。

地域が光るためには人が光らなければならない。市職員もこれまで以上に楽しんで仕事が出来よう、アンケート調査や意見収集をし、常識にとらわれず運営に反映していただきたい。